



2011年度 理事者の1年

2011年度理事者の任期もあと1か月を残すところになりました。今年度は、東日本大震災・福島第一原発事故の対応、取調べの可視化、若手会員支援など、多くの重要課題がありました。また、被災高校生への義援金交付の取組みや東弁ツイッターの導入は会の内外から高い評価を受けました。ここでは、多くの課題を迅速・適切に処理してこられた理事者に、1年間の思い出を執筆していただきました（尚、会長からは各副会長に、副会長には1年間席を隣にされた副会長同士で一言ずついただきました）。

試練と試行の一年でした

会長 竹之内 明 (31期)



この1年を漢字一文字で表すと「試」かなと感じて（漢字で）います。

一つは、試練の年で、試されたという意味からです。東日本大震災という試練に、弁護士・弁護士会には、手を差し伸べて被災者の方々に寄り添うことが求められましたが、会員の皆様にはこの役割を良く果たしていただきました。さらにこの役割を果たさっていくことが、弁護士・弁護士会の未来にとっても重要だと考えます。

もう一つは、試す年であったという意味においてです。取調べ可視化の試行が、取調べ全過程の録画を含め本格化した年でした。この試行によって実証的な検討がなされ、取調べの可視化の法制化が実現することを

期待しています。会務運営においても、若手会員支援のためのチューターと被チューター共同での法律相談の担当やクラス会制度、種々のお知らせを集約した新会報の発行、理事者会のペーパーレス化などを試行として行いました。次年度での結果検証と制度化検討をお願いしたいと考えています。

理事者会は年間90回程になりますが、先を見据えた議論の時間はありません。そこで、「戦略理事者会」と称して、毎月一度、エンドレスで議論し、懇親にも努めました。また、私も含め愛煙者が3名おりましたが、マイノリティにもやさしい配慮をいただきました。

6名の副会長、山田、末次両監事、松江、渡辺常議員会正副議長、囑託の皆様、会員の皆様、そして職員の皆様に支えられ、大したこともできませんでしたが、何とか任期を全うできそうです。改めて感謝申し上げます。

竹之内会長が贈る 6人の副会長の字

最後に、副会長の方々に、かえってご迷惑でしょうが、字を贈ります。

- 藤原副会長は…【要】理事者の要。私とは相思相愛の仲？でした。
- 篠原副会長は…【純】意外なのですが、ピュアな心根の持ち主です。
- 内田副会長は…【格】風格からすれば会長です。よく間違われました。
- 白井副会長は…【能】思いつきに形を与えてくれる能吏でした。
- 山中副会長は…【際】口にはしないが、国際通・国際派でした。
- 吉野副会長は…【笑】毎日でかい笑い声を響かせ、場を明るくしました。

1年を振り返って

副会長 藤原 浩 (33期)



日弁連の筆頭副会長である竹之内会長を補佐して東弁の会務運営に当たることが本来の私の役割でありました。しかし、本年度は、震災問題、会館地代問題、春闘問題という大変な課題を抱えての波乱の船出となり、このため、竹之内会長を補佐することは後回しとなり、理事者全員でこれら難題に取り組むことになりました。震災問題では、法律相談だけでなく、被災高校生に対する義援金支給や東弁職員の仙台弁護士会派遣など、東弁独自

の成果を残すことができました。また、会館地代問題は東弁が主張した方向で協議も進んでおり、春闘についても、職員の理解を得て何とか妥結することができました。

担当の綱紀懲戒では、ベテラン弁護士の非行の増加や弁護士法人を悪用した非弁活動など、多くの問題が残されています。公設事務所は、批判的な意見もありますが、大きな成果を残していることも事実であり、東弁としてさらに支援する必要があると考えております。

"better late than never" の言葉を胸に1年間取り組んできましたが、反省すべき点多かったと思います。会員、職員、そして役員の皆様に謝意を表します。

となりの副会長が見た 藤原副会長

藤原副会長は、頭脳明晰の理論派であり、性格は温和で、非の打ち所が無い副会長です。竹之内会長は、日弁連の業務に多忙で留守がちのため、筆頭副会長として、理事者のまとめ役となり、遺憾無く、その能力を発揮されました。

人事担当副会長の私としては、いずれ、藤原副会長を最高裁判所の裁判官に推薦したいものだと思っています。こんなことを書いたら、藤原副会長に叱られそうです。1年間、大変お疲れ様でした。
(篠原 焯夫)

あっという間の1年でした

副会長 篠原 焯夫 (34期)



今まで、1年間にこんなに短く感じたことはありませんでした。この1年間、自分は副会長として、一体何ができたのかを考えると、内心忸怩たる思いがします。理事者会や各種委員会・協議会等に出席したり、稟議書の決裁やメールの確認をするなど、目の前の課題をこなすのが精一杯で、結局何もできなかったような気がしています。もちろん、このような日常業務は大切なことと思いますが、もう少し業務の効率化を図り、

東弁の将来について、じっくり腰を据えて考える時間が必要と思いました。間もなく任期を終える私が言うのと叱られると思いますが、理事者の任期を2年にすることも検討すべき時期にきているのではないのでしょうか？(無責任な発言でゴメンナサイ!!)

尚、副会長就任当初、パソコンをマスターすることと、職員の皆さんの名前を全て覚えることを目標に掲げましたが、業務多忙のため？これも達成できませんでした。反省…。

最後になりましたが、職員の皆さんにはこの1年大変お世話になり、本当にありがとうございました。

となりの副会長が見た 篠原副会長

昔の日活映画(ロマンポルノではありません!)に登場するような強面で、酒もタバコもギャンブルもやるというのですから、第一印象は「怖い」人でした。ところが、実際の篠原副会長は、物事の道理や礼儀を重んじ、何事も慎重に対処し、言葉遣いも丁寧で、根っからの紳士でした。庶民派と称しながら、東弁の健全な会務運営に向けて全力で取り組んでいただき、本当に感謝しております。ただ、人参を食べられないのは欠点ですが…。
(藤原 浩)

本年度を振り返って

副会長 内田 成宣 (35期)



理事者に就任していた当初から危惧していたことであるが、今振り返ってみて、具体的成果が出たと言えないことが残念である。

事務職員の方の優秀さは就任時の感想として既にLIBRAに掲載しているが、一般的な業務はその指導の下、何とかクリアしてきたと思うのだが、個別的、具体的な

問題については私自身の指導性、決断力の足りなさから解決への指針を提起できないでいる状況である。これら（法律相談、多摩支部、等の件）は次年度の理事者に任せるほかはない。

とは言っても、竹之内会長、藤原筆頭副会長ほかの理事者の温かい(?)ご助力により楽しく理事者室で仕事ができただことについては感謝の気持ちで一杯である。

となりの副会長が見た
内田副会長

「お大尽」という言葉が目鼻を付けて背広を着たらこんな風貌になるんでしょう。よく自席に職員を呼んで笑顔でその話に耳を傾けています。いつもどっしりと構えていて、周囲に安心感を与える人です。

その雰囲気とは裏腹に、じつは行動派です。普段からよく車を運転して東京じゅうをあちこちと駆けめぐります。理事者で分担して東京のすべての区市町村に訪問したときも、内田副会長は、他の人の何倍もを担当し、奥多摩地域は一人で引き受けました。

(白井 剣)

思いは伝わる

副会長 白井 剣 (37期)



副会長は調整役です。会内には多様な考えがあります。ときにそれはぶつかり合います。理事者会と違う方向を目指す委員会もあります。折り合いをみつけてまとめるのが副会長です。己れを空しくして調整役に徹しようと心がけ続けた1年でした。

それでも抑えきれない思いもあります。親御さんを亡

くした被災高校生140名から義援金に応募があったときがそうでした。財源は足りないけれど全員に給付したい。職員と理事者全員が思いをひとつにしてオール東弁で募金に取り組みました。多数の会員と市民からご支援を頂戴しました。思いは会長の努力で福岡と愛知の各弁護士会にも伝わりました。140名全員が卒業するまで給付を続けたい。あと少しでその財源が確保できます。もうひと頑張りです。

となりの副会長が見た
白井副会長

①外見：オシャレである。服装について言えば、シャツに関しては常に色物、柄物を着ており、白物を着用しているのを見たのは私の記憶では1回のみである。どうもすべてのシャツは仕立物であるらしく、すべて、自分で選んでおり、奥様の選定ではないという。また、冬に入ってからハンチング帽が出てきた。これもまたオシャレである。②中身：演説を聞くと、理路整然としており、冷静でしかも自らの信念に基づいて自身のいく道を歩いている。しかし、一方で、その心の奥には、燃えたぎるものがあり、激情家の面も持っているようである。物事が道理から外れるとその怒りが前面に出てきた激しい言葉が出てくる。(しかし、笑いながら……)③結論：こんな白井副会長であるので、一言でこんな人ということとはできない。しかし、今後の東京弁護士会を背負っていく人であることは間違いない。(内田 成宣)

一生一度の貴重な体験

副会長 山中 尚邦 (38期)



長くもあり短くもあった1年間でした。理事者の担当領域の広範さとその業務量の多さは想定以上であり、与えられた課題の多くは、就任前の知識経験では理解や判断が困難なものばかりでした。

副会長として、OA刷新、男女共同参画基本計画、法曹人口問題意見書、世界大都市弁護士会会議、香港2弁護士会との友好協定、法律相談チューター制、会務活動等会規改正等々の課題を担当致しましたが、

いずれも委員会委員・嘱託弁護士・担当職員の方々のご尽力に依るところ大であり、会務の遂行がこれら関係者の協同作業であることを実感致しました。

処理し切れぬ課題も残りましたし、一年間緊張感を持続できたかどうかとも思いますが、会員数が増加し弁護士・弁護士会の役割が広がり続ける中で、弁護士会全体に目配りする立場から、弁護士・弁護士会のあり方を考える時間を戴いたことと担当した委員会の委員・嘱託弁護士の方々、事務局職員、そして今年度理事者と知り合えたことは、一生一度の貴重な経験となりました。

となりの副会長が見た
山中副会長

この1年、理事者会でいろいろな問題を議論しました。山中副会長は、他の理事者の意見が一通り出た後で、足りない点を的確に指摘することが、何回もありました。控えめな方なので、議論のポイントを押さえていながら、先ずは、人の意見を伺うという態度に徹します。周囲の人の力を引き出すというか、人を引き立てる術を知っているチームの要ともいべき人です。また、酒の席では、赤ワインを片手にこやかに話をする姿に、性格の良さが反映されており、昼も夜も大人でした。でも一つ意外だなと思ったことがあります。山中副会長の言に依れば、亭主関白だということです。真実は如何に？ 今後の楽しみにとっておきたいと思います。これからも、よろしくお願いします。(吉野 高)

3・11

副会長 吉野 高 (39期)



東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故。この2つを避けて、平成23年を語ることはできないと思います。当会も、東日本大震災対策本部を立ち上げ、いろいろな活動を現在も継続中です。

5月には、三陸海岸の被災地に行きました。映像で見ていた状況と同じでしたが、360度まともな建物が何一つ建っていない場所に実際に立ってみると、自然の力の大きさを実感させられました。いわきには、4月

と12月に行く機会がありました。12月には、4月に比べ街には人が増えていました。しかし、福島県民の被害は、未経験の原発事故に基づく放射能によるものです。今後どのように対応していくべきか、弁護士・弁護士会が智慧を絞り、積極的に活動していく必要があります。

私は、東日本大震災対策本部の担当副会長として、多くの若手会員が献身的に救済活動に取り組む姿を間近で見る機会を得ました。4月からは、一会員として、若手会員の活動の足を引っ張らないように気をつけながら、できることを行いたいと思います。

となりの副会長が見た
吉野副会長

吉野副会長は持ち前の笑顔とさわやかで、いつも理事者室に明るさと活気を与えてくれました。復旧復興対策で何度も震災地に赴き、会館地代問題で法務省と折衝したりと重要な課題を難なく処理されたことには頭が下がります。運動会のリレーでは理事者チームを最下位から救い、ご家庭ではお風呂掃除等も受け持つ模範的家庭人でもあります。1年間どうもありがとう。また、これからもよろしく。

(山中 尚邦)